

コーディネーターの紹介



井口清太郎先生

新潟大学地域医療学講座
特任教授

新潟県十日町市生まれ・在住。
新潟大学 新潟地域医療学講座 地域医療部門の特任教授として、「最先端ではないが最前線」である地域医療の魅力を多くの医学生、研修医に伝えるべく、日々精力的に活動している。
十日町高校出身。1994年に新潟大学医学部を卒業し、新潟大学学部附属病院、新潟労災病院で研修の後、厚生連糸魚川総合病院、厚生連秋田組合総合病院を経て、新潟大学医学部附属病院第二内科、新潟県立六日町病院、新潟大学医学部附属病院第二内科に勤務。
腎疾患・透析を専門とする一方で、2005年より地域医療教育、災害医療に携わり、2009年より現職、現在に至る。
大学でも外来診療や講義を担当するとともに、魚沼地域においても学生実習の指導に携わっている。
好きな言葉は「罪を憎んで人を憎まず」。温厚篤実、酒とラジオと山菜を愛し、バイクを趣味とする48歳。



井上陽介先生

地域医療振興協会
「地域医療のススメ」
プログラム責任者

大阪府出身。
京都大学在学中はテニス三昧の生活を送っていたが、医師不足地域についてのテレビ番組を見て、田舎の診療所で働くことを志す。
平成5年大学卒業後は自治医大の地域医療学教室で初期研修・後期研修を行い、平成10年4月～12年3月まで岐阜県の春日村診療所（現揖斐川町春日診療所）で念願のへき地診療所勤務。その後一時自治医大総合診療部に戻るが、平成13年4月から新潟県湯沢町国保診療所に赴任し、湯沢町保健医療センターの開設準備に携わる。開院後は湯沢町保健医療センター管理者として、地域と一体になった医療を行いながら、医学生・研修医教育に関わり、平成23年4月からは地域医療振興協会（JADECOCOM）の家庭医療後期研修プログラム「地域医療のススメ」プログラム責任者として、将来地域で働く人材の育成を行なっている。
新潟に来てから日本酒に目覚め、大阪人のソウルフードであるお好み焼きを焼くことを特技とする48歳です。